

米国 製造業部門に減速感(06年5月ISM製造業景気指数)

発表日：2006年6月1日(月)

～製造業部門のモメンタムは今後一段と弱まる可能性～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

ISM (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	生産	雇用	在庫	入荷遅延	新規受注	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
05/05	51.8	55.7	49.1	47.8	51.2	51.9	51.0	58.0	55.3	53.9
05/06	54.0	56.3	50.4	47.5	53.1	57.2	51.0	50.5	51.2	54.2
05/07	56.4	60.5	53.2	47.9	52.3	60.0	49.0	48.5	55.8	54.7
05/08	53.5	55.9	52.9	46.1	50.6	55.8	50.5	62.5	54.5	53.4
05/09	58.0	61.7	53.1	49.0	58.6	60.7	55.0	78.0	57.3	53.4
05/10	58.1	60.8	54.9	48.4	60.8	59.9	55.5	84.0	55.2	58.2
05/11	57.3	60.2	56.0	49.3	56.9	58.5	53.0	74.0	57.9	54.1
05/12	55.6	57.8	53.6	47.3	52.9	59.1	49.5	63.0	54.3	52.8
06/01	54.8	56.6	51.3	46.5	55.3	58.0	53.5	65.0	58.5	57.0
06/02	56.7	57.4	55.0	49.6	52.2	61.9	54.5	62.5	57.0	57.5
06/03	55.2	57.5	52.5	48.7	53.1	58.4	59.5	66.5	57.3	57.0
06/04	57.3	60.4	55.8	51.3	57.7	57.6	57.0	71.5	53.4	59.0
06/05	54.4	57.2	52.9	48.0	57.6	53.7	53.0	77.0	55.7	56.5

54.4 と前月比 2.9 ポイント低下し市 場予想を下回った

06年5月のISM製造業景気指数は、54.4と市場予想の55.7を下回り前月から2.9ポイント低下した。雇用、新規受注、生産、在庫、入荷遅延の全構成項目が前月から低下した。国内需要の堅調と世界的な需要の拡大を背景に高い水準を維持しているが、前月から低下し、拡大した業種数も20業種中13業種(4月15業種)に減少しており、製造業部門のモメンタムがピークアウトした可能性が高い。

今後、ISM製造業景気指数に1, 2ヵ月先行する新規受注・在庫比率が大幅に水準を切り下げていることから、ISM製造業景気指数が今後も低下を続けるとみられ、製造業部門のモメンタムは今後一段と弱まる可能性が高い。

金融政策への影響では、今回のISM製造業景気指数の低下だけでは、景気が十分に減速したと判断されないとみられる。利上げが休止されるには、今後物価の落ち着きと消費減速を示唆する統計が発表される必要がある。

製造業受注の拡大ペ ースは鈍化

個別にみると、生産指数は高水準を維持したものの(37ヵ月連続で50を上回った)、前月から3.2ポイント低下し、拡大した業種数も13業種(4月14業種)に減少した。このため、製造業生産(FRBベース)は基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で5月に拡大ペースを減速すると予想される。

一方、新規受注指数は37ヵ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回ったが前月から3.9ポイント低下した。拡大した業種数も9業種(4月14業種)と大幅に減少しており、製造業部門の減速を示唆している。この結果、製造業受注(商務省ベース)の拡大ペースは3ヵ月前対比年率で鈍化すると予想される。

再び在庫削減

在庫面では、在庫指数が48.0と前月から3.3ポイント低下し50を下回り、在庫を増やした業種数が20業種中5業種（前月9業種）と減少した。加えて、新規受注と同時に在庫が増加する前向きな在庫拡大が2業種（前月8業種）と大幅に減少したことから、企業は在庫の削減に動いたとみられる。

一方、新規受注が減少する下で、在庫が増加する悪い在庫増となった業種は3業種（前月3業種）にとどまり、さらに新規受注が増加し在庫が減少している業種が7業種（前月8業種）と多いことから、生産への影響は小さいと判断される。

貿易赤字は高水準持続

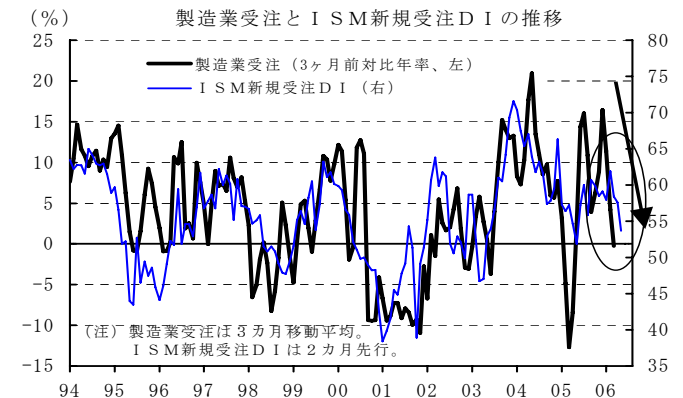
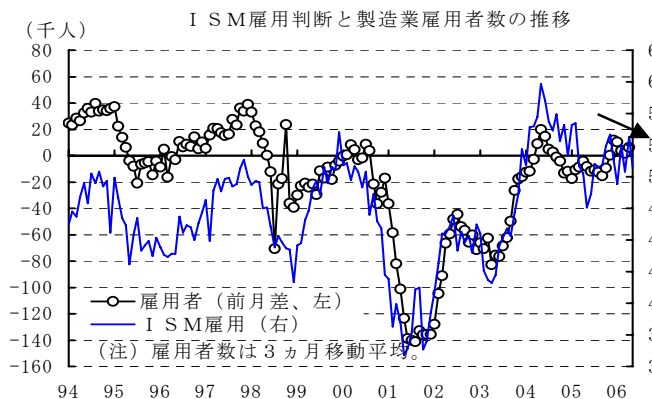
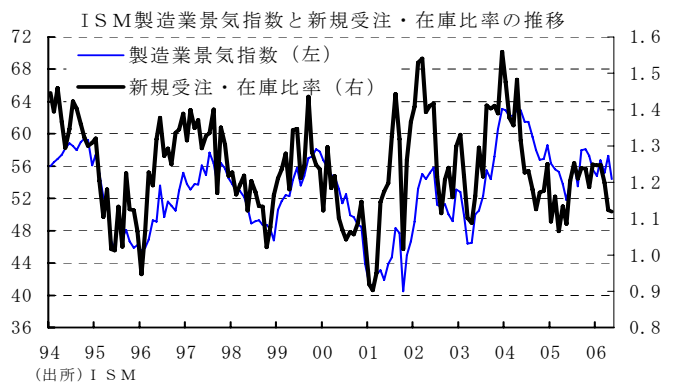
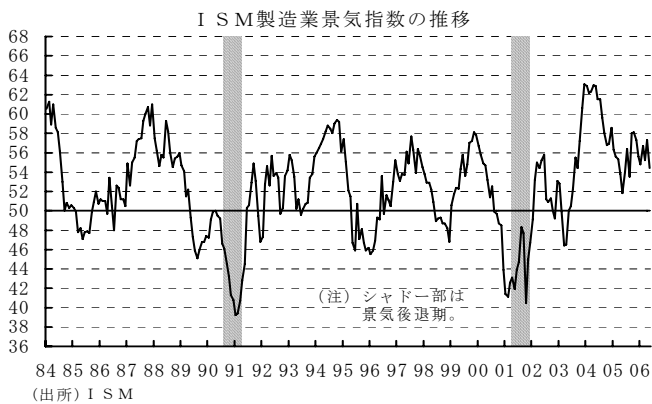
外需関連では、輸出受注は55.7と前月の53.4から上昇し、通関統計に3ヵ月先行する3ヵ月移動平均では昨年8月をボトムに4月まで上昇傾向を辿ったことから、輸出（通関ベース）の拡大ペースは6月にかけて高い伸びが期待できよう。一方、輸入指数は56.5と前月の59.0から低下したものの高い水準を維持しており通関ベースでの輸入の増加ペース加速を示唆していることから、貿易赤字額は高水準で推移する可能性が高い。

製造業雇用は緩やかな拡大にとどまる可能性

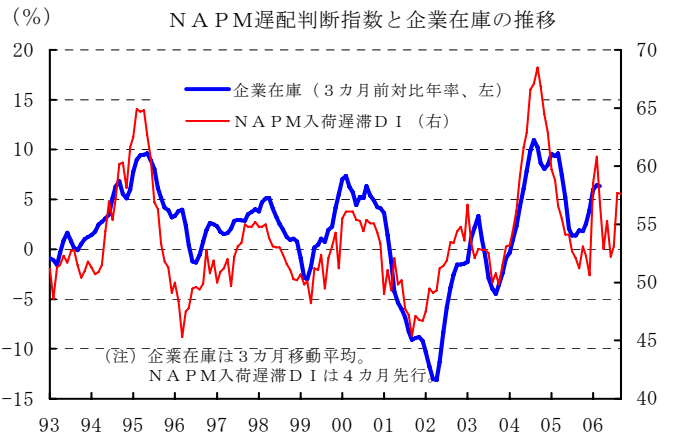
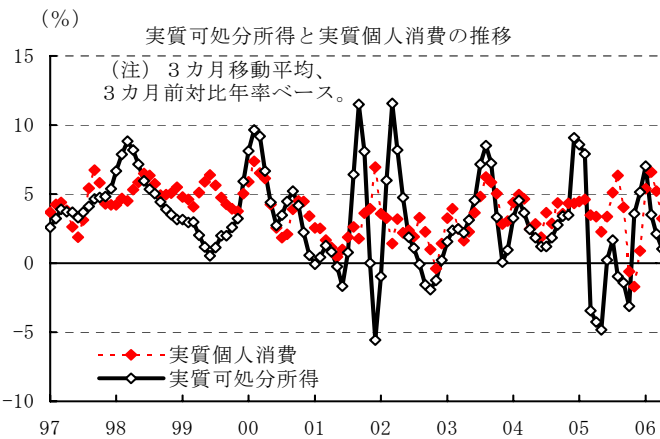
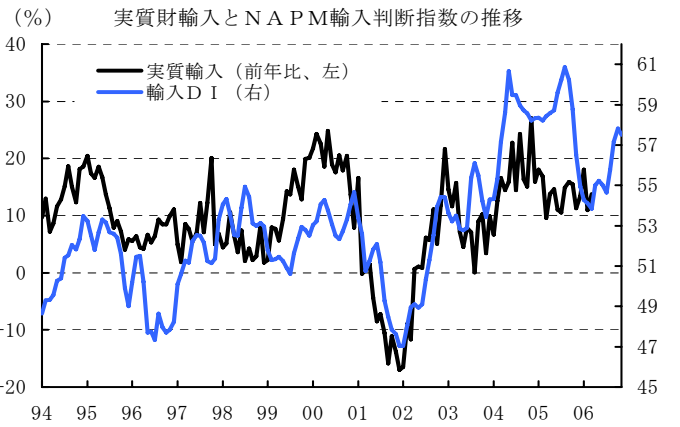
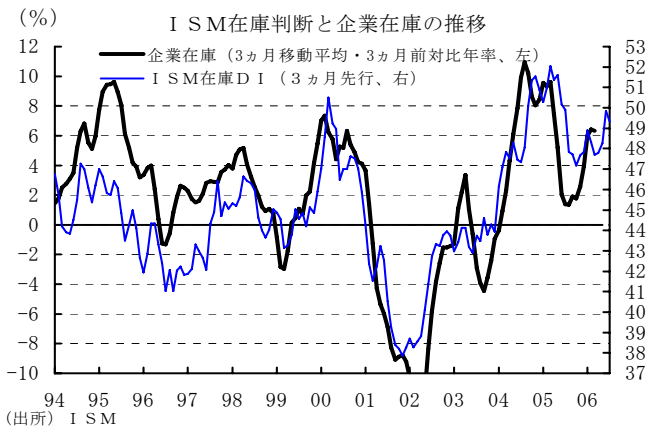
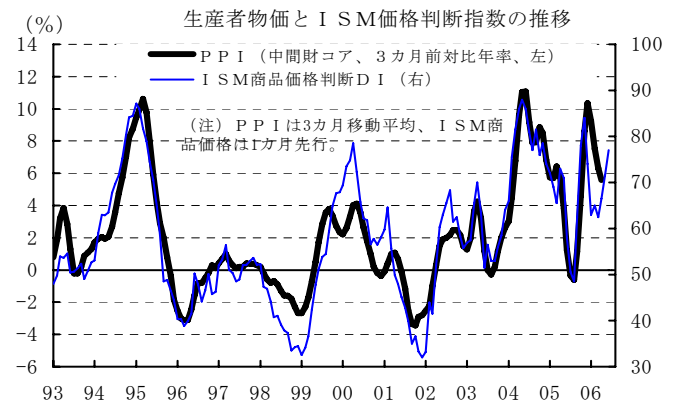
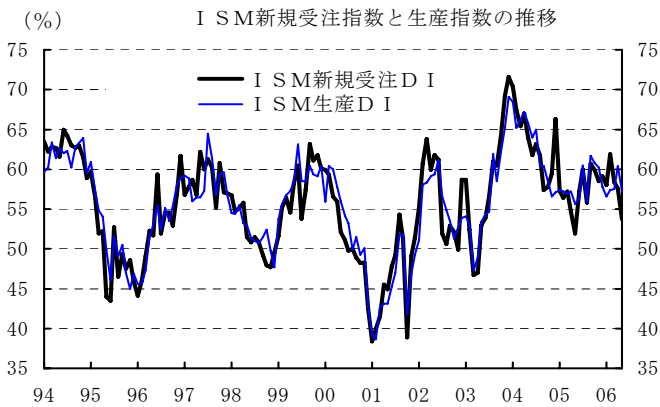
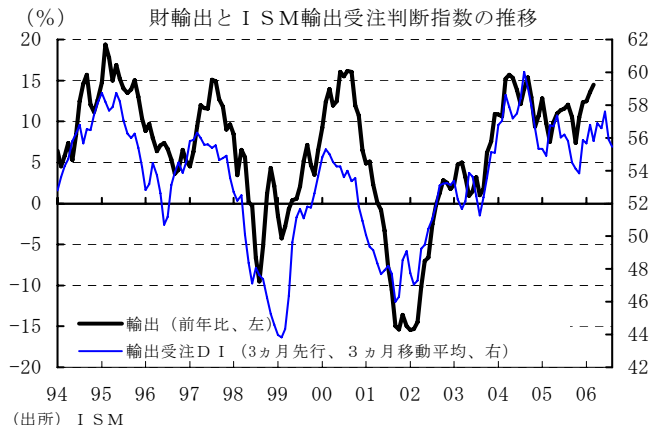
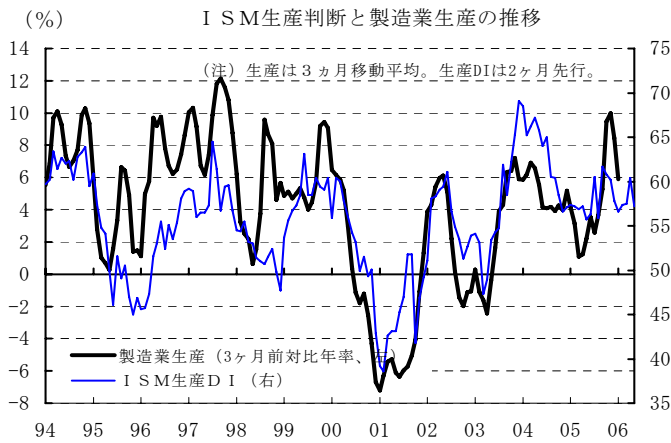
雇用関連では、雇用指数が52.9（4月55.8）と9ヵ月連続で50を上回ったが、前月からプラス幅を縮小し、増加した業種も11業種（12業種）に縮小したことから、製造業雇用者数は5月に増加ペースが鈍化する可能性が高い。

川上での物価上昇圧力が一段と強まる公算

物価面では、商品価格指数（仕入れ価格）は77.0と商品価格やエネルギー価格の急騰によって再び上昇している。このため、商品価格指数に遅れて動く傾向にあるPPI（中間財コア、3ヵ月前対比年率）は5月に一段と伸び率が加速する可能性が高い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。